

半場
久也

(カットキ筆者)

《新世界》から発信されたドヴォル ジャークの手紙と当時のアメリカ

アロイス・ゲーブ
ル宛て（原注・一八四
一年、一九〇七年、音
楽好きのシフロウの領
主力ミール・ロハン
に、秘書として使え
後に土地管理人をして
な音楽家で歌手。長い間、
ドヴォル

「ヨーヨーク、一八九四年一月」十七
日
「大切な友！ 気高い方 三倍にも
ちこがれていたあなたの手紙を受け取り
ました。どんなに私は感動したことでし
ょう！ それが私だけではないのです。
全員、オティルカも母親も階段を駆け降
りてきたのです。私はサロンに座つて弾
いていたのです。

一体なんだと書つのか？ 誰から来た

手紙？ それはまるで私は叫び声を上げ
たのです。シフロウからだ！ とおお、
どんなに憧れて、震える手で私はあなた
の手紙を開いたことでしょう。そして二
回行われたのです。オルティガが先ず高
い声を張り上げて読みました。その後、
私はです。私はあまり嬉しそぎて、あな
たに手紙を書くことが出来なくなりまし

ジャークの友人であり、彼の子供達の名
付け親）

「ヨーヨーク、一八九四年一月」十七

日
「大切な友！ 気高い方 三倍にも
ちこがれていたあなたの手紙を受け取り
ました。どんなに私は感動したことでし
ょう！ それが私だけではないのです。
全員、オティルカも母親も階段を駆け降
りてきたのです。私はサロンに座つて弾
いていたのです。

た。ところでは、あなたは御自分で
理解出来ないよつた多くの喜びを私に』
えたのです。

私はあえて申し上げますが、この嬉しい
ことにいて、心から感謝します。あなた
の手紙を読んで、あなたが私や家族が当
地でどの様に暮らしているかご存知だと
いうことが分かりました。お陰さまで
我々は元気でして、確かに沢山の心配事
を抱えていますが、あまり気にかけては
おりません。そのことは乗り越えねばな
りません。

「」存知の通り、学校の仕事ですが、私
は全く真面目にやっております。私は一
曲の交響曲を書きました。それは全アメ
リカを掘り起こしたものです。他に一曲
の弦楽四重奏曲とヴィオラ一挺の入つた
弦樂五重奏曲を書いたのです。四重奏曲
はヘ長調で五重奏曲は変ホ長調です。一
月にここで『ドヴォルジャークの夕べ』
が行われました。ボストンから有名な西

重奏団がやつてきたのです（クナイゼル氏の四重奏団です）。そのほかに六重奏曲が演奏されました。

聴衆は交響曲の時と同じく興奮していました。私の妻と私は聴衆の中に座っていましたのですが、その晩は何回自分の席から立ち上がりて、興奮した聴衆に新作が大変受けたことに対する感謝の意を表わさねばなりませんでした。これら三曲に私は厚かましくも私の作った最も優れたものとして印を

です。全ての批

評も同じように見

ています。——ヨーロークの新聞は、次のことと書いています。『ド・ヴォルジャーコが当地アメリカで、この様なものを書くことが出来るのであれば、何故この人はわざと早くここへ来なかつたのだろう』

ヴァイオリンのソナチネの後に、今新しい作品を完成させました。それはピアノのための組曲です。私はジムロックと

仲直りをしました。このことをあなたは良く知りませんね。彼は私が持っているものを欲しがつてゐるのです。新聞で見た通り、序曲は二曲とも出版されました。『ド・ヴォルジャー』やホーリー用のロンドも

です。

ブルームズは個人的な親切から、これらの作品全てに手紙を通してくれました。感謝しています。彼はジムロックに手紙

確固たる地位と不朽の名声獲得

良いことを残念に思いました

を出しつゝ私のことをよみこべと頼んでくれ、私の『好ましい作品』のことを喜んでいると書いてくれました。どんなに彼がジムロックへの手紙の中で的確に伝えてくれたことか。この交響曲と四重奏曲と五重奏曲をジムロックは買ってくれましたが、出版されるのは夏になつてからです。

あなたが全ての作品を手に入れることを

については、私が面倒を見ましょ。恐らく年内に私があなたに個人的に手渡すことがあります。どこののは、今年ボヘミアへ帰る積もりだからです。そのことは、後程お知らせします。我々は大体五千五百円に出発し、五千一百円にはブライハに着くでしょう。

シフロウについても、それにしても悲しこりです。その変化があらゆるもの

を奪つてしましました。私はそれらの全

てを新聞で読み、この善

なけれども、あなたがそこにいらして

以前と同様、そこが気に入つていては喜むことです。私はしばしばシフロウのことを思ひ出します。夕食の時、どんなにしばしば子供達、特にオティルカにその事を語ります。あなたや皆あなた達と一緒に幸福な時を過ごした曾てのことを、そして下のシャイブルさん

覚えた時のことや…

「これは私が生涯忘れる」との無い思い出なのです。マショウ氏と彼の奥さんそれに「ワイーリン氏」によくおはぐください。私は心からあなた方に挨拶をおくつます。

また手紙をくれますか？ 私はきっと出します』

「メントー」の手紙の宛先人は注釈か記述するが、また手紙を手にした時の家族の喜びから察すると、ボヘニアのシフロウという地方に住んでいた、ダ・ヴォルジャーケ家にとつて非常に大事な人物であることが分かる。シフロウとこの名の地名を、各地方別のヨーロッパの詳細な地図で辿つたが、遂に発見出来なかつたダ・ヴォルジャーケ一家が昔から少なくとも長女が赤ん坊のころから遊びに行つていた先だったのである。シフロウの老人とは誰のことか不明である。

文中「ピアノのための組曲を最近完成

させた」とあるのは、イ短調作品九八と

思われる。これは一八九四年一月十九日から三月一日にかけて作曲されたと言わ

れている。ただし以前は作品一〇一番になつてゐるとか、だとするとこの手紙を書いた時点では、殆ど出来上がっていまだらなければ、完成間近と書つたことと察せられる。

また「これ三曲に私は厚かましくも

……」とある箇所に注目していただきたい。勿論『新世界より』と『アメリカ』

と弦楽五重奏曲を指してゐるが（訳注・

内藤の著書によれば）、この最後の五重奏曲も『アメリカ』というタイトルが付いていて、これらの曲は作曲家も手紙に書いてゐる通り、聴衆の絶大な反応があつた。要するに、この時点では、作曲家はや

今回も極めて困難な情況にあるから、クラブや機関誌がどうあるべきなのか、辛口の意見を紹わりたいと思います。多数の会員からの声をお聞かせください。

その他、隨想・単韻・俳句・川柳等はいつもじおりです。

下旬を予定しています。

締め切り 7月10日(土) 発行は

通巻600号記念
夏季号の原稿募集

1957年9月にスタートした本誌
もいよいよ600号を迎えます。50
0号から11年かかつてしましました
区切り」との企画を振り返りますと

「医療藝術に望む」とこつたものが今
いよづです。